

広島市、LGBT講座

「働きやすい職場を」



性的少数者が過ごしやすい職場づくりについて話す中塚医師（奥）

性的少数者（LGBT）が働きやすい職場づくりをテーマにした講座が3日、広島市役所であった。性同

一性障害（GID）を総合的に診療する岡山大病院シエンダークリニック（岡山市北区）の中塚幹也医師

（55）が、偏見をなくす研修の重要性などについて解説した。

企業の総務や人事担当者にLGBTへの理解を深めてもらおうと市が初めて開き、約80人が参加した。

中塚医師は、連合の昨年のインターネット調査で、性的少数者は労働者の8%を占めるとの結果が出たと紹介。「血液型で言えばAB型の人と同じくらいの割合となる。決して少ない」と、職場での対策の必

要性を強調した。

具体的には、同性のパートナーとの関係を結婚に相当するとみなす福利厚生の見直し▽GIDの人が心の性に合うトイレや制服、通称名を使えるようにする環境整備▽同性愛なども「セクハラ」の対象だと伝える研修の実施などを紹介。「当事者の意思をしっかりと理解する姿勢や仕組みが大切になる」と呼び掛けた。

（久保友美恵）